

国語科学習指導案

I 単元 おもちゃのせつ明書を作ろう

II 考察

1 教材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

③学びに向かう力，人間性等

文章を通して積極的に他者と関わり，よりよい文章を生み出そうとする態度

①知識及び技能

時間的な順序に即した文章の構成や言葉の使い方に関する知識及び，それを用いる技能

②思考力，判断力，表現力等

時間的な順序に即した文章の構成に応じ，多様な情報の中から必要な情報を選択したり，文章を修正したりする力

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

〔知識及び技能〕(2)

ア 共通，相違，事柄の順序など情報と情報との関係について理解すること。

〔思考力，判断力，表現力等〕B 書くこと(1)

イ 自分の思いや考えが明確になるように，事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。

(3) 単元の価値

本単元では，来年の2年生のために，生活科で製作したおもちゃの作り方の説明書を書く活動を行う。その価値は以下のとおりである。

説明書は，製作の過程が手順通り書かれるという性質をもつ。そのため，子どもたちは時間的な順序に即した文章の構成を自然と意識できるとともに，「はじめに」「つぎに」といった時間的な順序を表す言葉に必要感をもち，使い方を理解した上で文章に用いることができる。

子どもたちは生活科「みんなであそぼう」で，身近なものを用いておもちゃを作って遊ぶ学習に取り組んでいる。生活科の学習の中で児童が一度作ったり遊んだりしたおもちゃについて説明書を書くという活動は，具体的な手順を想起しやすく，手順ごとの作業のまとまりにも気付きやすい。そのため，時間的な順序に即した文章の構成に照らし合わせながら，必要な情報を選択したり，文章を修正したりすることができる。

子どもたちは生活科の学習において，説明書が無い中でおもちゃを作り，苦労したことを覚えている。よって，おもちゃ作りの説明書を書くという活動は，子どもたちにとって必要感のある活動である。また，同じおもちゃを作った友達と一緒に学習に取り組むことは，おもちゃ作りの手順に関わる共通の経験を想起しやすく，また，必要な情報の有無という視点ももちやすい。こ

これらの理由から、子どもたちは文章を通して積極的に他者と関わり、よりよい文章を生み出すことができる。

(4) 今後の学習

ここでの学習は、2年「ふたばしょう作文を書こう」における、事柄の順序を意識した文章を構成する学習へと発展していく。

2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、2年「ふぞく小の2年生は大いそがし」において、「朝」「お昼前」「お昼過ぎ」「夕方」など、時間を表す言葉を用いて、順序を意識しながら1日の生活について文章に書く学習に取り組んできた。この学習の中で明らかになった、子どもたちの実態及び本単元を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ① 「朝」「お昼前」「お昼過ぎ」「夕方」など、1日の時間帯を表す言葉を用いて時間的な順序に気を付けながら文章を構成することができた。このような子どもたちが、「はじめに」「つぎに」など、時間的な順序を表す言葉の使い方を理解し、それを用いて文章を構成することができるよう、教科書に掲載された例文を用いて時間的に順序立てられた文章の特徴を話し合った学習の履歴を、掲示物として掲示する。
- ② 文章を構成する際、「朝」「お昼前」「お昼過ぎ」「夕方」などの時間的な順序を表す言葉に合わせてまとまりが作られていることを確かめることができた。このような子どもたちが、「はじめに」「つぎに」など、おもちゃ作りの手順に従ってまとまりが作られていることを確かめることができるよう、作業ごとに作成したメモカードを、手順に合わせて数枚ずつまとめる活動を設定する。
- ③ 友だちと書いた文章を読み合い、「いつの話か」「できごと」「理由」などの視点に沿って、よい点や改善点を見つけ、伝え合うことができた。このような子どもたちが、より分かりやすいおもちゃ作りの説明書を意識できるよう、友達の書いた説明書通りにおもちゃを作りながら説明書のよい点や改善点を伝え合う活動を設定する。

Ⅲ 目標及び評価規準

Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

Ⅴ 本時の学習

- 1 ねらい 友達の書いたおもちゃ作りの説明書に従っておもちゃを作る活動を通して、分かりやすい説明書の視点に即して友達の文章のよい点や改善点を指摘することができる。
- 2 準備 おもちゃの作り方を書くための学習プリント，拡大した教科書の例文，前時までの板書の拡大写真，おもちゃ作りの材料や道具
- 3 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
1 本時のめあてをつかむ。 ・書いてある通りにおもちゃが作れたらいい説明書だね。 ・来年の2年生が困らないように、ど	○説明書の下書きを読みながらおもちゃを作り，よりよい説明書に直すという学習への見通しをもてるよう，分かりやすい説明書の特徴について問いかける。 ○分かりやすい説明書にする必要感をもてるよう，完成

の説明書を読んでもおもちゃが作れるようにしよう。

- ・ 友達の説明書でおもちゃを作るのが楽しみだな。作れないときは、どうすればいいか一緒に考えたいな。

2 友達の書いた説明書を読んでおもちゃを作り、説明書のよさや改善点について伝え合う。

- ・ これは、わりばしを切っているところだね。まずはとばす部分を作ればいいんだね。
- ・ ここに書いてあるのは、羽根の部分のテープでとめるってことだよ。
- ・ 説明書の通りに作ったけれど、写真のようにはならなかったね。
- ・ ここまでは何とかできたな。羽根をねじるとおもりのテープを巻くのは逆の方が作りやすいんじゃないかな。
- ・ 長さが15cmって書いてあったから、ここは迷わなかったね。
- ・ 教科書の例文のように「まず」という言葉は使われていないな。使った方が順番が分かっていると思うよ。
- ・ ガムテープをどこに貼り付けるのかが分かりづらかったのか。どうやって書き直したらいいかな。
- ・ 直すところが多かったな。赤がたくさん増えたから、きっと最初よりも分かりやすい説明書になったということだな。

3 本時の学習を振り返る。

- ・ ○○君は、説明書の分かりにくいところを見つけるのが上手だったな。
- ・ 次はぼくも写真と文章が合っているかどうかを気を付けて読んでみよう。

した説明書を読んでもらう相手を問いかける。

- 互いに書いた説明書を読み合い、おもちゃを作る学習であることを意識できるよう、説明書を書いたり読んだりする機と、おもちゃを作る機を区別する場の設定について説明する。

- 記述と修正を繰り返して行えるよう、一つの手順ごとに「書く→読みながら作る」活動を繰り返すよう促す。

- 2人で協力して説明書のよさや改善点を見つけ出すとする意識をもてるよう、ペアで1つの説明書を読みながらおもちゃを作るよう促す。

- 児童が視点をもって友達の説明書を読めるよう、順序を表す言葉や、写真や絵と文章との整合性、理由の有無等について指摘している児童を積極的に賞賛する。

- 写真や絵と文章との対応を意識しながら説明書を読めるよう、おもちゃの作り方を書くための、写真や絵の付いた学習プリントを用意し、写真や絵の通りにおもちゃを作れるか問いかける。

- 友達の説明書のよい点や改善点に気付けるよう、分かりやすさの視点に照らして説明書を読むよう促す。

- 分かりやすさの視点に基づいて文章を修正できるよう、視点を基にした友達からのアドバイスを生かし、ペアで修正の仕方を相談するよう促す。

- 分かりやすい説明書にするための文章の書き方に気付けるよう、拡大した教科書の例文や、前時までの板書の拡大写真を掲示し、参考にするよう促す。

- 修正点を視覚的に捉えられるよう、変更したり付け加えたりした文章については、赤で書き加えるよう促す。

評価項目

視点を基にして友達の書いた文章を読み、そのよい点や改善点を伝えている。 <発言②>

- 本時の学習の達成感を味わえるよう、ペアで、互いの取組のよかったことやがんばったことを賞賛し合うよう促す。

- 本時の続きに取り組むという次時の学習への見通しをもてるよう、本時の学習で解決しなかった課題や、もっとがんばりたいことを問いかける。

指導と評価の計画（全15時間）

目標	おもちゃを作る手順を考えながら文章の内容を理解したり，順序に気を付けながら，おもちゃの作り方を説明したりすることができる。			
評価 規準	(①知識・技能)時間的な順序に気を付けながら，おもちゃの作り方の説明文を読んだり書いたりしている。 (②思考力・判断力・表現力)時間的な順序という視点で，教科書教材や友だちの書いた文章を読み，よさについて友だちと考えを伝え合っている。 (③主体的に学習に取り組む態度)時間的な順序に気を付けて，文章を読んだり書いたりしようとしている。			
過程	時間	学 習 活 動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>
つかむ	1	○生活科「みんなであそぼう」での学習を想起し，「まとまりやじゅんじょに気をつけて，おもちゃの作り方をらい年の2年生に説明しよう」という学習課題をつかむ。	○説明書作りという活動へ意識が向くよう，生活科の学習でおもちゃ作りをした際に大変だったことを想起する活動を設定する。	◇説明書があれば，来年度の2年生がおもちゃ作りをしやすいという気付きを発言している。 <発言③>
ふかめる	4	○『しかけカードの作り方』を読み，おもちゃの作り方を説明する文章に書くとよいことを話し合う。 ・「ざいりょうとどうぐ」「作り方」「つかい方」というまとまり。 ・順序に気を付けた「作り方」の説明の仕方。 ・写真の使い方。	○書き方の特徴と関連付けて考えられるよう，分かりやすさの根拠を話し合う活動を設定する。	◇「しかけカードの作り方」のよい点として，「まず」「つぎに」等の順序を表す言葉に着目し，そのよさについて発言している。 <学習プリント②>
	3	○生活科「手作りおもちゃであそぼう」のおもちゃの作り方の手順をメモに書く。	○教材文の特徴を生かして説明できるよう，「ざいりょうとどうぐ」「作り方」「つかい方」を記述するカードをそれぞれ用意する。	◇順序を表す言葉の使い方，写真と文章との対応などに気を付けながらメモに書いている。 <学習プリント①>
	1	○書いたメモを読み合い，分かりやすい点と，さらに工夫できそうな点を伝え合う。	○文章の内容に着目して伝え合えるよう，同じおもちゃを作った友だちとのグループを編制する。	◇順序を表す言葉の使い方，写真と文章との対応などに気を付けて，分かりやすさを伝えている。 <発言②>
	3	○アドバイスを基に，説明書を作る。	○カードに書かれたことを文章にできるよう，文と文とのつなぎ方の例や，拡大した教材文を提示する。	◇順序を表す言葉を用いて，おもちゃを作る手順を記述している。 <学習プリント①>
ふりかえる	2	○友だちの説明書を読んで，おもちゃを作る。	○説明書の分かりやすさについて考えられるよう，異なるおもちゃの説明書を書いた友だちとペアを編成し，おもちゃを作る活動を設定する。	◇おもちゃを作りながら，順序を表す言葉の使い方，写真と文章との対応等について発言している。 <発言②>
	1	○自分の説明書を読み返し，感想を書く。	○分かりやすく書けたことを実感できるよう，工夫できたことや友だちに伝わったことを感想として記述する場を設定する。	◇分かりやすい説明の仕方について学んだことを，今後に生かそうとする内容を記述している。 <学習プリント③>